

脳卒中はスピードが命です！

脳卒中とは、脳梗塞や脳出血、くも膜下出血が代表的に挙げられます。病気の症状が見られたら、とにかく速やかに病院に、そしていち早く治療を行い、リハビリを開始することが、その後の生活の質を向上させると言われています。なぜスピードが命なのか、そして早期の病院受診が必要なのか、そしていち早く受診できるよう早期発見のサインについて、お話しさせていただきます。まず、はじめに病気の説明・どんな治療が行われるかをご説明します。

まず脳梗塞では、脳の血管が詰まり血液が脳に届けられなくなり脳が徐々に壊死を起こして行きます。そこでいち早く詰まってしまった血管に再び血液を流すようにする注射（経静脈的血栓溶解療法）や、直接血管にワイヤーを通して血液の塊を取り除く治療（機械的血栓回収療法）、壊死の進みを抑える点滴の治療を受けることができます。

一般的に経静脈的線溶療法は発症より 4.5 時間以内に慎重に行うものとされていますが治療開始が早ければ早い方が良いとされています。また脳の太い血管が塞がってしまった場合には 2 4 時間以内であれば経動脈的血行再建療法を受けることも可能な場合があります。

脳はたくさんの血液を必要とする組織です。血液が脳に届かない時間が長くなればなるほど壊死が出来上がってしまいます。そのためスピードが命となるのです。

次に脳出血では、脳の血管が動脈硬化・高血圧などの要因で傷つき脳に出血を起こします。

くも膜下出血では脳の血管の分かれ目などにコブができ、高血圧などの要因でコブが破裂し脳の周りや脳に出血を起こします。

いずれも速やかに血圧を下げ出血を繰り返さないように治療する必要があります。

そこで脳卒中の早期発見サインを覚えていただき速やかに病院受診をしていただきたいと思います。



早期発見のサイン

F：「顔」まずは顔が歪んで笑顔が作れない、片側の口角が下がる。

A：「手」両手を同時に上げて同じ位置で固定できず片側の手が落ちてしまう。

S：「会話」呂律が回らずうまく話せない。

T：「時間」FASTの症状が出たらとにかく速やかに病院へ、症状が出た時間を救急隊の方に伝えましょう。

桐生厚生総合病院では脳神経外科の専門医のもと経静脈的血栓溶解療法や血栓回収療法が可能な施設です。FASTを覚えて速やかに治療が受けられ早期にリハビリを行うことで、社会復帰が早まる事が期待できます。

当院では医師・看護師（脳卒中リハビリテーション認定看護師2名）・リハビリスタッフ・メディカルソーシャルワーカーが協力し、ひとりひとりの患者さんと向き合い希望にできる限り寄り添うことで早期に社会復帰できるようにお手伝いをさせて頂いています。

早めの受診、早めの治療、早期リハビリが社会復帰につながりますので脳卒中の早期発見のサイン「FAST」が認められたら当院へ起こし下さい。

【脳卒中リハビリテーション認定看護師 根岸 香緒里】

